

## 鹿沼市子ども・子育て会議 議事録

日時：平成25年10月25日(金) 13時30分～15時20分

場所：鹿沼市役所 本館2階 特別会議室

出席者：鹿沼市子ども・子育て会議委員

学識経験を有する者：高柳 恭子

子どもの保護者：荒井 正行、高根澤 秀明

子ども・子育て支援に関する知識経験を有する者：

関口 直美、堀川 照子、田野井 輝恵、柴崎 君江、仲田美智子、小島 孝夫、

阿久津 真吾

関係団体から推薦を受けたもの：岩本 雅子、大貫 毅、武田 淳子

関係行政機関の職員：佐藤 昭男、小森 基伊

(欠席者：渡辺 明恵、細川 朋子、茂呂 英運、佐藤 誠、田村 隆)

事務局 6名

### 議事内容

#### 1. 開会

#### 2. 委嘱状交付

代表交付 宇都宮共和大学准教授 高柳恭子

#### 3. あいさつ

松山副市長あいさつ

#### 4. 子ども・子育て会議条例について

(事務局より説明)

(質疑応答)

・ 特に無し。

## 5. 会長・副会長の選出について

(事務局案で決定) 会長：高柳恭子、副会長：岩本雅子

## 6. 議事

### (1) 子ども・子育て支援新制度について

(事務局より説明)

会長：現在、市の補助が昔に比べると充実しているが、今回の制度では、利用者の要望がどうか、もっと質の高いものにするためにはどうしたらいいか、利用者・提供者双方の立場で意見を頂けるとありがたい。

(質疑応答)

・ 特に無し。

### (2) 子ども子育て支援事業計画スケジュールについて

(事務局より説明)

(質疑応答)

大貫委員：基本計画の策定にあたって、子育て当事者たちの意見を取り入れるため、素案が出来た段階等で、直接、意見を聞く場を設けてはどうか。

会長：この会議はワーキングチームへの提言をするものだが、委員は市民の親御さんたちを代表しているので、日ごろからリサーチして、聞こえてくる声をそれぞれこの会議で代弁してほしい。

事務局：委員の意見を参考に検討する。今日の会議も公開にしており、傍聴者はいないが、感想シートも用意しており、できるだけ多くの意見を取り入れていく予定。

仲田委員：市内にお産ができる病院が2つしかない。市内に転入して、出産する人たちは何もわからずに困っている声を聞く。ニーズ調査は0歳からとのことだが、妊婦の意見も取り入れると参考になるのではないかと。

事務局：妊婦についても実施予定。

( 3 ) ニーズ調査について

( 事務局より説明 )

・ ニーズ調査の具体的な件数 ( 10月24日現在 )

幼稚園児、保育園児	2,726件
その他未就園児	1,241件
就学児童	1,416件
妊産婦	172件 ( 初産、小学校4年生以上の子がいる妊産婦のみ )

( 質疑応答 )

会 長：量の見込みの内容、対象者、優先順位、回収率を高めるための工夫としてアンケートの配布方法、ソフト面を充実させるために本音を聞き出したいが、回答する保護者に理解しにくいところがないか等意見を出してほしい。

高根澤委員：利用希望について、お願いする親としては利用するにあたって金額的にいくらかかるのかを示してほしい。

会 長：9ページの利用状況・希望の問の中で「認可保育園」、「自治体の認証・認定保育施設」のような行政的な言葉の意味の理解をできない保護者がいるのではないか。幼稚園・保育園に通っていないその他の未就園児の保護者は情報が少ない中で理解できないのではないか。また、今後の利用希望の選択を1つだけに絞るのは難しい。子育て支援窓口・幼稚園・保育園・小学校等、保護者と直接会う機会がある施設で、このアンケートの話題を出し、自分たちの問題として答えてほしいと伝えることも大事。

関口委員：「小規模な保育施設」等これから作られる施設、存在しないものについて詳しい内容がわからないので、回答する人にとってはわかりづらい。

会 長：市民によって市の支援事業についての理解度が異なる。行政の支援事業を利用している人はよくわかっていて心配ないが、逆に表に出てこない方には情報が少なく、調査内容をよく理解できないのではないかと感じる。

荒井委員：地域の子育て支援事業の利用状況について説明があるが、意見は家庭によって異なるので、項目の最後に意見を自由に書ける欄を作って記入してもらったほうが現状がわかるのではないかと感じる。

会 長：調査の最後に自由記入欄はあるが、最後だけでなく、途中の項目について、何を困っていて、どうしてほしいのかを書ける欄があったほうが、本音を書きやすいのではないかと感じる。

会 長：女性として自分の子育てのとき、つらかったのは子どもが病気になったときだった。お母さんが安心して働ける働き方という観点から見直してもらえるといいなと期待している。働いている親の本音を書けるスペースがあるとうれしい。

荒井委員：5ページの間9の表の形式が見た目に理解がしづらいので、わかりやすいようにしてほしい。

会 長：事務局で検討してほしい。

委 員：今、資料を渡されて意見をと言われても、時間がない。

高根澤委員：回収期間はどの程度で考えているか。

事 務 局：2～3週間で考えている。

会 長：回収した後の方が集計等に時間がかかる。自分の経験では、期間が長いと忘れられてしまうので、2週間程度でいい。期間よりは配布方法が重要であり、回答する保護者への細やかな声掛けが大事。

柴崎委員：認可外保育園の場合は、その他未就園児に入るのか。その場合は、各家庭へ郵送で配布されるのか。

事務局：その通り。

柴崎委員：では、保護者へこの調査について協力するように声掛けを行う。

荒井委員：現状、何を悩んでいるのかをしっかりと把握することが大切。他市では、子どもに関して日常悩んでいることを選択する項目がある。例えば、子供に関して「病気」「発達」「接し方」「食事の問題」「友達付き合い」を選んだり、保護者自身が悩んでいることに関しての項目もある。現状把握のためにこのような項目も必要ではないか。

阿久津委員：回収率はどの程度を見込んでいるのか。

事務局：当初は郵送で55%程度を考えていたが、ワーキングチームの中で郵送では回収率が悪い、とても55%の回収率は望めないとの意見があり、急ぎよ、幼稚園・保育園・小学校は手渡しで直接お願いすることとした。回収率はどの程度になるかわからないが、少なくとも郵送の55%よりは上がると考えている。

関口委員：アンケート結果はとても重要になってくるので、この場では目を通しきれないし、検討しきれない。

認定こども園の推進、地域型保育「小規模保育」「居宅保育」等については市で取り組む方向なのか。

事務局：国で示したものを網羅的に上げているもの。市として今後、取り組むかも未定。必要に応じて、取り入れる。

武田委員：勤務している学校で困り感のある家庭は小学校4年生以上にもいる。小学校3年生までではなく、小学校全体を二ーズ調査の対象としてほしい。

田野井委員：小学校全体を対象とした方がいい。

会長：小学生の問題もよく耳にする。対象は何歳までという国の指針はあるのか。

事務局：小学生については任意調査。

会長：事務的に可能であれば、小学生全体へ対象を増やす方向でいいか。

小森委員：小学生全体が対象でいいと考える。

会 長：荒井議員から困り感について項目を増やす案があったが、困っていることがあれば記入する欄を増やし、現在の調査票にプラスする方法、質問を追加し、項目をいくつか提示して選択してもらう方法がある。

大貫委員：選択肢があったほうが書きやすい。自由記載だと面倒くさくて書かない。

会 長：選択肢の方は、プラス面としては書きやすい、マイナス面としては内容を限定してしまう、そんなに困り感がない人でもとりあえず書いてしまう事が考えられる。自由記載は本当に困っている場合しか書かないかもしれない。

堀川委員：記入欄をところどころに入れるのもいいが、項目の中で「その他( )」で意見を記入できる欄があるので、書きたい人はそこに書いてくれるので、最後に自由記載欄があるだけでもいいかもしれない。

二一ズ調査は今後の計画策定の基本になっていくものなので、できれば持ち帰って内容を検討したい。委員として幼稚園の代表としてきているが、他の園長先生の意見も聞きたい。もう少し時間をとれないか。

会 長：委員の意見としては、時間をかけて内容を検討し、具体的な項目を事前に提案の上、再度、会議を招集したい。

事 務 局：事務上の期限として、2週間がリミット。

会 長：今回は11月13日13：30で開催。11月1日〆切で具体的な案を意見書として提出してもらい、それを反映させた新しいプランを提示してもらうこととする。

荒井委員：調査対象が小学校6年生までになったので、アンケート調査の対象人数を次回でいいので、教えてほしい。

事 務 局：了解した。

( 4 ) その他

特に意見なし。

7 . 閉 会\_\_